

第30回 温泉関係功労者被表彰者(50音順)

氏名	年齢	役職等	功績概要
オカムラ ミシル 奥村 稔	63	島根県自然環境保全審議会温泉部会委員 国立大学法人 島根大学総合理工学部物質科学科教授	環境分析化学を専門に研究され、現在も日本分析化学会、日本化学会、日本地球化学会、日本陸水学会、日本環境化学会、環境科学会に所属し、学会活動も行いながら、環境分析化学等の研究、研鑽を続けられている。 その蓄積された専門知識を生かし、平成6年から島根県自然環境保全審議会委員(温泉部会)の学識経験者(環境分析化学)として温泉掘削等による水質関連での地域への影響などの他、温泉資源の保護と活用に関し審議会において意見を述べるなど、温泉行政の推進に貢献した。
タカマツ ノブキ 高松 信樹	63	元東邦大学教授	昭和47年より東邦大学に勤務し、温泉化学の分野において、分析化学を基礎に温泉成分の解析をとおして温泉の分類と特性並びに湧出機構、資源の変動等の解析により温泉の賦存状態を解明し、温泉枯渇現象と塩水化、海水 - 岩石相互作用の温泉水の化学組成に対する寄与などを明らかにした。また、温泉水の色に着目した、温泉水の老化現象をその色調を手がかりに解明する手法を開拓することで、従来から主張されてきた「源泉に近く、且つ湧出直後の新鮮な温泉ほど分析を行う上で有効である」という主張を再確認するなど、新たな視点から分析化学的手法を用いて、温泉資源の保護と利用面の適正化の基礎情報を明らかにした点で大きく貢献した。
タケムラ ケイジ 竹村 恵二	58	京都大学大学院理学研究科教授 大分県環境審議会温泉部会委員	大分県内における温泉の化学的調査研究を通じて公共の福祉の増進に寄与することを目的に昭和24年に設立された大分県温泉調査研究会の会員として、昭和62年から23年間の長きにわたって専門分野の地質学を通じて温泉の調査研究を行うとともに、研究会等において発表している。 主な研究成果として、岩石の磁氣的性質、地熱、ポーリングコア等の調査に基づく温泉生成メカニズムの解析などが挙げられ、これらは将来にわたって大分県の温泉資源の保護に関する基礎資料となるものである。また、平成22年12月からは大分県環境審議会温泉部会の委員として、年6回の部会に出席し、地質学の専門家としての立場から温泉掘削の許可等に係る審議に携わるなど、温泉行政の推進に貢献した。
ナガスマ ノブオ 長沼 信夫	70	神奈川県自然環境保全審議会温泉部会会長 駒澤大学名誉教授	平成4年から18年以上にわたり神奈川県自然環境保全審議会温泉部会委員、部会長を務め、平成7年から平成9年にかけては神奈川県大深度温泉井検討委員会の座長として、神奈川県の温泉の保護と適正利用に尽力し、温泉行政の推進に大きく貢献した。 特に、長年にわたる関東南部地域を中心とした地下水・温泉に関する水文学的研究の成果を活かし、審議の中心的な役割を果たし、部会長及び座長として審議の取りまとめに尽力した。

<p>ナカジ ヒサシ 中地 壽</p>	<p>75</p>	<p>和歌山県環境審議会温泉部会委員 和歌山県温泉協会理事 浦島観光ホテル株式会社代表取締役社長</p>	<p>平成7年から15年以上にわたり和歌山県環境審議会温泉部会等の委員を務め、和歌山県を代表する温泉観光地の温泉事業者の立場から審議に参画するなど、温泉行政の推進に貢献した。 また、旅館業を通じ那智勝浦地域の振興に取り組むかたわら、平成11年から和歌山県温泉協会理事を務め、さらに平成15年からは国際観光旅館連盟近畿支部常任理事を務め国際観光事業の発展に寄与するなど、温泉資源の保護とその適正利用の普及啓発の推進に貢献した。</p>
<p>ミヤシタ カズヒサ 宮下 和久</p>	<p>59</p>	<p>和歌山県立医科大学医学部衛生学教授 和歌山県環境審議会委員 和歌山県温泉協会理事</p>	<p>和歌山県立医科大学において衛生学の観点から予防医学や健康増進について研究を行い、昭和61年以降25年以上にわたり日本温泉気候物理医学会温泉療法医、学会専門医として温泉医学の発展、研究に従事してきた。特に、和歌山県田辺市での「温泉が心身に及ぼす効果」に関する調査研究を2年間にわたって実施し温泉入浴と身体活動が及ぼす有用性についての論文を発表するなど、和歌山県内における温泉の学術研究の向上に寄与した。さらに、日本気候物理医学会でも研修会を主催し、講演を行うなど温泉医学の発展に貢献している。 平成2年からは和歌山県温泉協会理事として適正利用の推進と普及啓発に努めるとともに、平成7年から15年以上和歌山県環境審議会温泉部会等の委員を務め医学的見地から意見を述べるなど和歌山県温泉行政の発展に貢献した。</p>
<p>トカチガワオンセンリョカン 十勝川温泉旅館 キョウドクミアイ 協同組合</p>		<p>代表理事 作田 和昌</p>	<p>温泉資源の保護を図り、温泉利用者に効率的な給湯を行うための集中管理事業を行っている。特に、保温効果の高い給湯配管経路の設計により温泉水温下降が1.5 ～2.0 程度と抑えられているため、再加温を行わないようにすることで二酸化炭素の排出抑制にも貢献するとともに、温泉資源の保護に貢献した。 また、平成9年から「温泉開発と源泉の保護について」、「温泉の保護対策と効果的利用について」、「温泉排水熱利用について」等の勉強会や研修会等を開催し、温泉の保護と適正利用等の普及啓発に貢献した。さらに、研修会等をきっかけに温泉の排水熱利用の導入を実際に計画する組合員が現れ、また温泉排水熱を活用した農産物生産に取り組むなど、地元において温泉熱を活用した地球温暖化対策にも先導的に取り組んでいる。</p>